

■ 開設年度		■ 開講部局			
2011		共通教育			
■ 科目名					
ESDとサブカルチャー					
■ 英語科目名					
Education for Sustainable Development and Subculture					
■ 前後期		■ 開講区分		■ 科目形態	
前期		毎週		講義	
■ 単位数		■ 大分類（科目）		■ 中分類（分野）	
2		教養科目		分野3	
■ 受講学部学科					
全					
■ 担当教員			■ 担当教員所属		
萩原 豪			稲盛アカデミー		
■ 連絡先（TEL）			■ 連絡先（MAIL）		
099-285-3757			k6219828@kadai.jp		
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）					
【オフィスアワー】毎週木曜日 3 時限目@萩原研究室					
オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください（ダブルブッキングを避けるため）。					
■ 共同担当教員					
■ キーワード1			■ キーワード2		
視野・判断力・探求能力			コミュニケーション能力と相互理解		
■ 授業概要（目的・内容・方法）					
〔背景〕現在、日本は「環境立国」を標榜していますが、目標とする社会像として「持続可能な社会」、「循環型社会」、「低炭素社会」などを掲げています。特に地球規模の気候変動（いわゆる地球温暖化）については、1988年にアメリカ上院の公聴会で取り上げられてから約20年が経っていますが、各国はその対応をいまだ模索しているところです。このような地球規模の問題はメディアを通じて伝えられることが多く、一般市民に対するその影響力は非常に大きいと言えます。近年、特に大きな影響力を持っているもののひとつとして、サブカルチャーであるマンガやアニメの存在を挙げることができます。					
〔目的および方法〕本講義では「持続可能な社会」を目指すための手法のひとつであるESD（持続可能な開発のための教育）を基軸にし、受講生にとって身近な存在であるサブカルチャーを取り上げます。マンガやアニメのストーリーの中で取り上げられている世界観を題材にし、作品の中で描かれている「環境問題」、「食糧問題」、「エネルギー問題」、「水資源問題」、「科学技術と社会」などをテーマにしてワークショップを行い、「持続可能な社会」に対する知識・認識の共有化を行っていきます。そして国際社会が模索している「持続可能な社会」の在り方について受講生と一緒に考えていきます。そのため、ワークショップ形式で受講生がお互いに考え学んでいくスタイルをとります。					
■ 学習目標					
(1) 環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、サブカルチャーの作品を通じて環境問題を多角的な視点から考察していくことができるようになること。 (2) 自分の眼と耳と足で情報を探して作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得。 (3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。 (4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得。					
■ 授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）					
〔授業内容および方法〕第1回目の授業ではガイダンスを行い、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。授業で取り上げる作品は受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業はワークショップ形式で行います（講義とグループワークを組み合わせます）。グ					

グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり発表準備などの作業をする必要が出てくると思います。

- ・ガイダンス
- ・レポートの書き方、グループワークの進め方
- ・「環境」に関するグループディスカッション
(基礎的なもの、時事的なものを組み合わせる予定です)
- ・「持続可能な社会」とは何か
- ・環境教育とESDについて
- ・環境教育施設見学会(場所未定)
- ・グループワーク(食糧問題、水資源問題、エネルギー問題、科学技術などをテーマに用いる予定)
- ・研究報告会(かごしま環境未来館)
- ・ふりかえり

[授業時間外活動] 週末の時間を利用して正規の授業を行うことを計画しています。7月中旬: 研究報告会(かごしま環境未来館: グループワークで行ってきたことを発表してもらいます)。時期未定: 環境教育施設見学会(場所未定)これらの活動は水曜4時限目の授業時間数に読み替えます。詳細については第1回目の授業(ガイダンス)でお知らせします。

[作品] 授業で扱う作品については、時事問題を参考にして選定していきます。ただし授業時間内に作品の全体を上映することはできないので、できればレンタルビデオを借りるなどして各自で見えていた方が、作品が扱っている世界観への理解が深まるでしょう。授業で紹介する作品のいくつかについては、授業時間外(水曜5時限目終了後を予定)に上映会を行います。上映作品や日程については、受講生からのリクエストがあれば可能な限り対応していきたいと思います。この上映会への参加は自由ですが、授業時間数(出席数)には充当されません。

[参考] 昨年度の授業で取り上げた主な作品は次の通りです: [アニメ] 機動戦士ガンダム、宇宙戦艦ヤマト、宮崎駿作品(On Your Mark、千と千尋の神隠し、風の谷のナウシカ、となりのトトロ、もののけ姫)、[マンガ] 美味しんぼ、あんどーなつ、そばもん、[特撮] ウルトラマン、電子戦隊デンジマン、炎神戦隊ゴーオンジャー、琉神マブヤー。

■ 受講要件	■ 成績の評価基準
本講義のテーマに関心を持っていること。	授業への参加度(授業態度やグループワークへの貢献度など): 60%、課題等提出物(リアクションペーパーやレポート、研究報告会の資料・最終レポートなど): 40%、で総合的に判断します。学期末試験は行いません。 [注意] 次に該当する場合は評価対象外とします。(1) 出席が総授業数の3分の2未満の場合、(2) 研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。
■ 教科書	■ 参考書
教科書は使用しません。必要な資料は授業で配布します。 課題作成のために必要な書籍は別に指定します。	参考文献として書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、身の回りにある情報源から日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。参考文献一覧は授業中に配布しますが、主たる参考文献として次のものを挙げておきます。 (1) 手塚治虫『ガラスの地球を救え—二十一世紀の君たちへ』光文社(知恵の森文庫)、1996年。 (2) 堀公俊・加藤彰・加留部貴行『チーム・ビルディング—人と人をつなぐ技法』日本経済新聞社、2007年。 (3) 堀公俊『ワークショップ入門』日経文庫、2008年。

■ その他

[受講者数制限について] 受講者数は35名以内に制限します。履修登録人数が多い場合は抽選とします。この場合、第1回目の授業に出席した人に優先権を与えます。

[履修登録について] 履修希望者は第1回目の授業に必ず来てください。履修登録を行っても第3回目までの授業に出席しない場合、自動的に履修登録を無効とします。